

令和3年度第1回安曇野市文書館運営審議会 会議概要

1	会議名	令和3年度第1回安曇野市文書館運営審議会
2	日時	令和3年5月10日(月) 午後1時30分から午後3時まで
3	会場	安曇野市役所本庁舎3階共用会議室306
4	出席者	小宮山委員(リモート)、小松委員、瀬畑委員(リモート)、曾根原委員
5	欠席者	高原委員
6	市側出席者	橋渡教育長、山下文化課長、逸見博物館係長、平沢文書館長、幅博物館係主査、青木博物館係主査、高橋博物館係主事
7	公開・非公開の別	公開
8	傍聴人	0人 記者 0人
9	会議概要作成年月日	令和3年5月23日

会議事項等

○会議の概要

- 1 開会(山下文化課長)
- 2 教育長あいさつ
- 3 委員の委嘱
- 4 会長選出

安曇野市文書館条例第15条第4項及び第5項に基づき、会長に小松委員、会長代理に曾根原委員が選出される。

5 協議事項

(1) 令和2年度事業報告について

事務局 ・資料1について説明。

委員 ・市職員研修は大変すばらしい事だと思う。地域資料の更新手続きが円滑に行えたことは大変良かった。

委員 ・利用件数が目標に届いていないとの事だが、昨年に比べて件数は増えているし、新型コロナウイルスの影響下では仕方のない事だと思う。個人的な思いとしては、文書館はできる限り臨時休館しないで欲しいと思う。図書館等は代替措置がとれるが文書館は1点ものを扱っているので、代替措置がない場合が多い。閉館してしまうと代わりがないため。

委員 ・市職員向け意識調査の結果は後々公表されるのか。

事務局 ・市職員向けには2月の研修の際に紹介した。また、今年度の事業計画でも説明するが、8月に全職員向けの研修会を企画しており、その中でも活用していきたい。一般への公開は、原稿依頼のあった信濃史学会『信濃』に結果の一部を掲載した。内部資料に留めておく必要のある結果ではないので、公表の方法は今後検討したい。

委員 ・他自治体の担当者も安曇野市での調査結果は大変興味のある部分だと思う。公表できるように検討してほしい。

委員 ・臨時休館中もメールや電話での問い合わせに答えていたのか。

事務局 ・来館はご遠慮いただいていたが、電話・メール・FAXでのレファレンスには応えていた。市職員の利用は通常どおり行っていた。

委員 ・国でも各省の担当者から公文書管理法ができた当時よりも頼られているという実感がある。職員向けの調査結果では、廃棄・移管に不安を感じている職員もいるという結果だったが、文書館の活動が広まるということで、そうした不安を払拭できていければ良いと思う。調査結果を移管元(原課)との対応の部分で生かしていただきたい。

委員 ・事業指針について、目標値に対して実績値が大変良い結果が出ているが、例えば地域資料は受入点数が毎年このくらいの数字なのか、また職員がオーバーワークになっていないか。

事務局 ・地域資料の受入点数は開館以来、毎年3000点平均で推移していると考えている。整理点数については会計年度任用職員を3名、地域資料については市民の方をお願いして整理しているので、大きな問題は起こっていない。開館当時、公開点数を増加させるために負担が大きかった部分も、審議会の指摘を受け「要審査」文書を公開したため改善した。

委員 ・紀要や展示がよくまとまっていた。また、研究発表実績として外部の雑誌やたよりに寄稿されている事が地域との結びつきを強め、広がりを持って行く事業になると思う。

- 委員 ・地域資料の市場流出は大変多く、各館対応に苦慮している。どのようなものが流出しているのか。またどのような手立てを講じているのか。また、閉館している資料館の資料はどうしていくのか。見通しを教えてください。
- 事務局 ・博物館・図書館との連携については、文化課博物館係として定期的に4館館長会議を開いている。博物館との連携については資料1の通りだが、図書館とは図書館所蔵となっている小穴芳実資料の整理で連携していく事になっている。
- 事務局 ・流出文書については、古書店の目録やネット上の販売サイトを確認し購入している。一度ネットオークションに流出してしまうと自治体での購入は困難であるので、いかに流出させないかという取り組みに重点を置きたい。所有者に文書館の存在が伝わるような取り組みを考えていきたい。閉館した資料館の資料は、博物館係としても新市立博物館構想以来、豊科郷土博物館が中心となって資料整理に取り組んでいる。文書館としても、その活動に協力していきたい。
- (2) 令和3年度事業計画について
- 事務局 ・資料2について説明。
- 委員 ・区の文書の調査方法をどのように考えているのか。アンケートを取るのか、実地へ見に行くのか。区の中には管理が行き届かず文書がどこにあるか分からない人もいるのではないかと。また、区長も数年で交代する中で継続した調査を行うためには、地区の中に調査員を数名お願いして調査の主体となってもらうのが良いのではないかと。補助金等の活用も併せて説明していく必要があるのではないかと。
- 事務局 ・7月の全市区長会で、文書館の案内と区有文書調査のチラシを配布しようと考えている。83区同時に進めるのは不可能なので、まずは処分に困っている地区から寄贈を受けて整理する事を考えた。今年度で終える事業ではないので、出てきた課題に対応しながら進めたい。
- 委員 ・要審査となっている文書は公開点数に入らないのか。
- 事務局 ・「要審査」文書は公開点数に含まれている。
- 委員 ・これまで「要審査」とできなかった文書を公開する事ができたので、積み残しが無くなったという事か。
- 事務局 ・その通りだ。
- 委員 ・市職員の研修は、人事異動で人が代わってしまうと元通りになってしまう。こうした研修は定期的に継続的に行ってほしい。
- 事務局 ・この職員研修は各課の文書管理担当職員だけではなく、全職員が受ける。全職員が受ける研修は文書管理への意識向上にも繋がるので、今後も続けていただきたい。
- 委員 ・文書館の事業の中で市誌編さんはどのように発信されていくのか。講座・講演会・紀要への寄稿等具体的な取り組みはあるのか。
- 事務局 ・調査を進める中で問い合わせがあるのが古写真である。現状では、委員が収集してきた資料を文書館として整理公開している。
- 委員 ・出来れば、市誌の内容で講座・講演会を行えば新しい情報が入ってくると思う。
- 委員 ・地域研究交流会とは何をやるのか。今、安曇野市域で活用している団体は何団体あるのか。
- 事務局 ・10月10日の発表会は、市内3団体の方に発表していただく予定である。まだ、文書館で地域研究団体の把握はできていない。ただ、市内には区誌を作る地区も増えているので、そういった団体への協力も文書館で考えたい。
- 委員 ・市誌編さん委員会でも市誌を子どもたちへの教材として使えないかという意見が出ていたが、企画展・講座・講演会の中で子ども向けの企画は考えているか。
- 事務局 ・子ども版も市誌編さん事業の中で重要な位置づけである事は、認識している。子どもの事業については、行政と教員団体で子どもの取り合いになってはいけないので、教育会と連携して進めていきたい。
- 事務局 ・博物館係では、コンパクト展示野貸し出しを各学校に勧めている。また、豊科郷土博物館が進めている歴史文化遺産発見事業の書籍にも文書館が協力している。その書籍は、バーチャルミュージアムの中で学校現場にて活用してもらうように勧めている。
- 委員 ・国立公文書館では、夏休み期間の展示を子ども向けで行っていた。期間中はぬり絵やタブレットを設置していた。また、東京都の社会科の教員向けに館内見学を実施している。今後、

資料をどういった形で教育・学校の方で使えるか考えていただければと思う。

委員 ・大学全体との連携は難しい。各教員の個人的な繋がりや、文書館を利用させたりしている。

6 閉会 (山下文化課長)

以上